工夫して取り組んだこと

マスク・検温・消毒など

・子ども食堂を利用するスタッフや子どもたちの体温測定・体調管理を実施し、ノートに記録した。
・消毒、体調確認、体温計測、マスク着用及び予備マスクの準備、携帯用消毒スプレーや県からのパンフレットの個々への配布。
・消毒液にアレルギーをもつ人への殺菌・消毒作用のある石鹸とペーパーナプキンの準備。
・手洗い場や検温機の設置、飛沫防止と抗菌コーティング
・コロナ感染症防止対策を取り入れての子ども食堂運営のためのフェイスガードを設置した。

密　集

・スタッフの人員配置をできる限り小人数とした。
・事務所を広く改装し、密状態の解消に取り組んだ。

換　気

・コロナ禍でも感染対策をしながら、安心してボランティア活動を続けることができるよう、また支援を受けるために来場する方々の感染予防のために、空気清浄機台を購入した。このことにより、来場者が安心して活動に参加することができた。
・冷暖房を必要に応じて活用し、換気に留意して窓を開放した。

配　置

・長机１個につき二人になるように、配置及び呼びかけを行った。

テイクアウト／フードパントリー

・会食交流形式で食堂を開いていたが、コロナ禍となり３密回避が困難となり、お弁当の提供に変更した。

工夫して取り組んだこと

食　事

・地域内の資源による栄養ある食事や手作りお菓子の提供、作り方の伝授と体験活動の実施。
・季節ごとのお菓子づくりやお正月飾り作り、郷土学習の手作り教材、紙芝居語りなどの体験活動の場の提供。

活動場所

・自治会会長及び役員等に複数回子ども食堂の活動の意義を伝え、理解を得られた。その結果、本年度から公民館活用が可能になり、より広い活用場所を提供できるようになった。

学習支援

・公立学校の元教職員が複数おり、学習支援に力を注ぐことができるよう努めた。

活動の継続

・新型コロナウイルスの状況下ではあるが、毎回の検温・体調確認・手指消毒・名簿の作成（名前・連絡先の記載）、食事の配布場所での密の回避等の対応を十分検討しながら、できる限り継続できるよう運営を行っている。
・コロナ禍でみんなが大変なときなので、子ども食堂はしばらく休ませてもらおうかと大変悩んだ。そんな中で親たち、子どもたちは、もっと大変であろうと思い、しっかりマスク、うがい、手洗い、除菌に徹することを決め、絶対休むのはやめようと決め、今だから、こんなときだから子どもたちにたくさん食べてもらおうと、一人でも多くの子どもたちが来て、ほっとし、おいしいという思いで取り組んできた。

活動するにあたり苦労したこと

コスト・作業量増

・食事をお弁当に変えたことから、弁当箱の調達費が増えた。また、持ち運びしやすいメニューと詰め合わせの工夫や当日に食べきるよう伝達した（口頭、メッセージカード）。
・消毒や検温などの徹底や、配布場所での飲食を避けて、弁当配布などの対策を講じながら活動をしてきたが、どんどん支援を受けたい人が増えて、いつもの倍ほどの人がきた。そのため、感染対策をしながら弁当の個数を増やしていくための時間と資金のやりくりに苦慮している。

運　営

・調理場、調理器具等のさらなる衛生環境の消毒、換気。スタッフが調理場で過密とならないような時間割。スタッフの健康管理と当日の体調チェック。
・密状態にならないように利用人数を制限した。
・ボランティア、子どもたちの体調管理に必要以上に気を配った。
・スタッフ、ボランティアとの打合せを人数制限した上で実施した。

広　報

・学校給食等納入していたベイカリーの調理支援や昔遊び等の講師など、多大な協力を得られるようになったが、新型コロナ関連で活動の広報が困難になっている。
・学校へのチラシの配布をさせて頂いたが親御さんのもとに手紙が届かず、お客様が思うように集まらなかったところ、地元自治体の協力を得られ、育児手当のお弁当の中に広告を入れさせて頂いた。翌週からはお客様の人数が増え、お弁当完売が続いている。

今後の課題

子ども支援

・一人でも多くの食と居場所を必要とする子どもたちを支援できるようにすること。
・地域社会と連携した食と居場所に困窮する子どもたちを支援していくこと。
・家庭内、学校において悩みを抱える子どもたちの相談窓口を設置できるようにする。
・多くの子どもたちが子ども食堂を訪れる理由として、「親が食事をつくれない」、「親が仕事でいない」、「子ども食堂の方がたくさん食べられる」などがある。本当に困っている子どもは、子ども食堂に来ることはないのではないか。何とか本当に困っている子どもたちに言葉をかけてあげるきっかけが作れるようにしたい。

活動の周知

・弁当などを各家庭に訪問して配布しており、資金や時間のやりくりをしながら、さらに支援をしていきたいと考えている。しかし、その対象者となる母子・父子家庭、また貧困家庭や一人暮らしの高齢者世帯の情報をキャッチしきれていない。そのあたりは個人情報保護やプライバシーの観点から難しいとは思うが、できる限り支援情報を発信できればと考えている。
・本活動の目的として、子どもたちだけではなく、その保護者や地域内の孤食摂食・高齢者等も交えて縦横斜めの関係を構築したいが、今年度は広報することができないため、広報の方法の検討と普及が課題である。
・経済的支援や情報がない。また情報格差を埋める働きをしているところがない。

活動の継続・再開

・コロナ感染状況を見据えた取り組み方。
・公的機関との連携・構築・創出することで、誰もが活用できる居場所の確立。

居場所としての子ども食堂

・コロナウイルス感染が懸念される中、子どもたちの「孤食」問題には手が届いていない、解決策を見いだせていない状況である。環境・状況が整えば、また以前のように「孤食」等の観点からも、みんなで食事ができる場所が作れたらと思っている。